

Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

113

2024

秋 季 号



日本大学芸術学部
校友会ホームページ



日本大学
芸術学部
校友会

CONTENTS

令和6年度 芸術学部校友会総会開催報告	02
新副学長の抱負と今後の課題	03
江古田会ニュース	
東京江古田会・宮城江古田会	04
佐賀江古田会・ふくしま江古田会	05
熊本江古田会・北海道江古田会	06
鹿児島江古田会・山形江古田会	07
石川江古田会・江古田会各支部のご紹介	08
卒業生ストーリー「今、ここで」	09
学科ニュース	
写真学科・映画学科	11
美術学科・音楽学科	12
文芸学科・演劇学科	13
放送学科・デザイン学科	14
ウレン・ブンレン 運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中	15
支部長会議と懇親会のご報告	16
校友会からのお知らせ	17
今昔江古田B級グルメ	17
編集後記	18

表紙作品 板垣冨知(2023年度卒)
「幸抱」

(作者コメント)

在学中は主に人と猫をモチーフとし木彫作品の制作をしていました。私自身も鑑賞者にとっても一目見て思わず顔が綻んでしまうような作品になるよう意識しています。この作品は私が大好きだった飼い猫を抱っこしている様子を表現しています。飼い猫は抱っこする時にそのまま地面についてしまうのではないかとと思う程良く伸びていました。重力に従いそのまま伸びたら面白いなと思い制作しました。背面から見ると普通に猫を抱っこしている様に見えますが、正面から見ると普通ではない位猫の胴体が長いという奇をてらう様な構成となっています。

2024
日芸祭

日芸祭 校友会「お休み処」

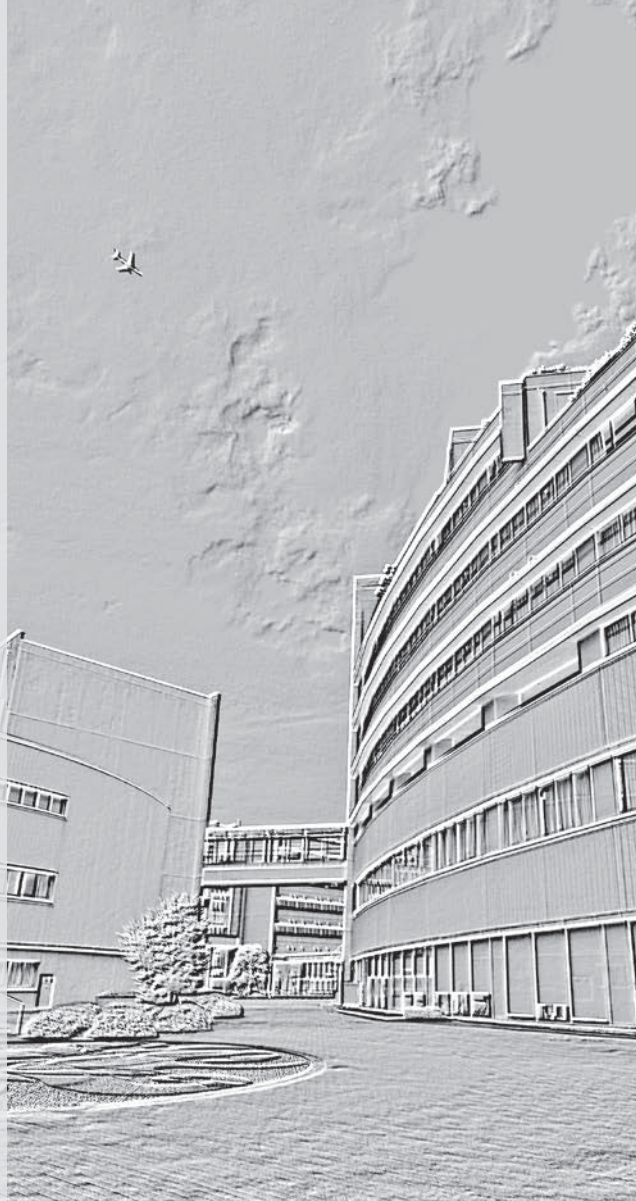
2024年11月2日(土)・11月3日

開催時間：11月2日(土)・3日

11月4日(月・振替休日)

西棟3階学芸員実習室：鉄道写真展と

※詳細が決まり次第、校友会HPと芸術学部HPに掲載されますのでご確認ください。





(日・文化の日)・11月4日(月・振替休日)
(日・文化の日) 10:00～16:00
10:00～15:00
鉄道模型ジオラマ展示(予定)

※日芸祭当日は江古田校舎の駐車場はご利用できません。

令和 6 年度 芸術学部校友会総会開催報告

令和6年度日本大学芸術学部校友会総会が令和6年7月6日（土）午後15時より江古田校舎西棟2階第1会議室にて開催された。会務報告、決算報告、監査報告、予算審議、会則改定（芸術学部校友会の準会員の呼称変更について）へと進み、いずれも拍手をもって承認された。

令和 6 年度（2024 年度）予算

収入之部		
勘定項目	摘 要	金 額(円)
本部よりの会費	準会員 4,000 円× 3,975 人 = 15,900,000 円	16,050,000
	正会員 3,000 円× 50 人 = 150,000 円	
校友会終身登録費	5,000 円× 220 人 = 1,100,000 円	1,100,000
雑収入	総会懇親会会費、お祝い金等	1,000,000
収入利息		1,000
合 計		18,151,000

支出之部		
勘定項目	摘 要	金 額(円)
総会費	総会・総会懇親会	500,000
諸会議費	常任幹事会・幹事会・諸会議	80,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤、ガムテープ・雑巾 他	100,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	131,000
通信費	会報発送（在校生・卒業生） 総会・会費請求切手 他	5,100,000
補助費	学科同窓会・日芸祭補助 支部補助（21 支部× 3 万円） 支部総会出席祝儀	1,150,000
寄付分担金	本部校友会分担金・日大スポーツ振興寄付	340,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	2,200,000
人件費	事務局員給料・アルバイト・人材派遣	4,600,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	730,000
旅費・交通費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	800,000
租税公課	利子税	1,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ・キーホルダー	400,000
備品維持管理費	HP 保守・運用、コピー機リース	850,000
本部役員会費	年会費（本部校友会役員 2 名× 2 万）	40,000
交流費	賀詞交歓会、他学部校友会総会懇親会出席	350,000
業務委託費	中間・決算・期末決算	154,000
雑費	慶弔費・会報誌デザイン料 終身登録費コンビニ収納料金代行手数料 他	250,000
支払手数料	銀行支払手数料、コンビニ収納サービス手数料など	75,000
退職積立金	事務局員退職金（校友会内規第 4 章第 19 条）	300,000
合 計		18,151,000

特別会計	日本大学芸術学部校友会奨学金 (8 名× ¥100,000)	800,000
特別会計合計		800,000

教育現場と大学執行部をつなぐ 「ハブ」のような存在となること

ソコロワ 山下聖美

皆さま、こんにちは。本年度より副学長（学務担当）を拝命しましたソコロワ山下聖美と申します。私自身は日藝の大学院を修了し、2000年より芸術学部の文芸学科副手となりました。以後、現在に至るまで、芸術学部で教鞭をとり続けております。

本年度より、週の半分以上を市ヶ谷の本部で過ごしておりますが、学生に直接接することのできる江古田での授業は現在の私にとっては大変重要な時間となっております。というのも、私の担当である学務は、授業関連全般を指しており、「いま」の教育現場から離れては、おそらく、とんちんかんなことになってしまうのではないと思うからです。

つまり、私の役割は、教育現場と大学執行部をつなぐ「ハブ」のような存在となること、コミュニケーションを欠かさず、円滑に大学運営が進むように、各所を結びつけていくことであると考えております。しかし、このコミュニケーションは日本大学のような大きな大学では本当に難しいことであります。昨年の、世間をお騒がせしたいくつかの問題の一因は、コミュニケーション不足によるところもあったかと思います。ですから、まずは何よりも笑顔でコミュニケーションをとりながら情報共有を行うという、とてもシンプルなことが必



要とされていると感じております。私はこうした役割を果たしながら、芸術学部で育んだ何事も楽しさを根底に湛えた大学生活というものを大学全体に広めていければいいな、と思っております。

学務の分野では、コミュニケーションが円滑に、タイムラグがないようにとり行われるように、教育DXを推し進めたいと考えております。とくに、各学部の教務事務システムとのデータ連携の仕組みを構築し、学生の「個」と「いま」に即した教育をデザインしていく予定です。こうしたことも含めて、学務の仕事は課題が山積みです。変化が厳しい入試戦線を生き抜かなければなりません。海外交流

やFD活動をさらに推し進め、付属学校との連携を強化しなければなりません。これらの課題のもと、今年度より、学務担当には6人の強力な補佐の先生方が配置され、学務チームとして常に情報を共有しながら課題をこなしている最中です。

また、16学部、通信教育学部、短期大学部、そして付属学校の多様な学生たちがコミュニケーションをとれるような試みを日々考えています。芸術学部ではさかんに学科間交流が推し進められていましたが、それをさらに大きくして、日大グループ全体の中で交流をもとう！ということです。学生間だけではなく、教職員、役員、そして校友の皆様もまた、日大グループの貴重なメンバーです。皆様方との連携が、日本大学の今後にとっては必要不可欠です。

感性豊かで、バイタリティに溢れた芸術学部校友の皆様のパワーが、学部を超えて、日本大学全体に広まりますよう、心からお願いを申し上げます。どうぞ今後とも、よろしくお願い申し上げます。

【プロフィール】

ソコロワ 山下 聖美（やました・きよみ）教授

平成7年日本女子大文学部卒。

13年本学大学院芸術学研究科芸術専攻博士後期課程修了。博士（芸術学）。

19年本学芸術学部文芸学科専任講師。23年同准教授。

27年同教授。日本近代文学会所属。

令和6年より日本大学副学長。

みなさんの参加をおまちしております

この度、吉川前会長の後任として会長（校友会東京支部長）を拝命いたしました。

どうぞよろしくお願いいたします。

さて、芸術学部のお膝元に3年前に設立いたしました東京江古田会は、去る6月22日に母校キャンパスにて第二回総会を開催いたしました。

コロナ渦での設立でもあり、今までは十分な活動がままならない状況でしたが、新型コロナが5類に移行し流行もひと段落して参りましたので、今年度より本格的な活動を開始する予定であります。

主な活動としては会員間の親睦・交流を目的として、会員の近況や各種情報（作品・制作・公演・講演・出版・個展・発表会や事業内容など）の発信や親睦会の開催、日芸祭への参加などを計画しており、会員間の公私にわたる交流の一助となれればと考えております。

また今年度から、より多くの校友の皆さんに参加していただけるよう年会費を廃止いたしました。

入会登録は東京江古田会のサイトに入会フォーマットを用意して受け付けておりますので、関東地方在住在勤の校友の皆さんのご参加をお待ちしております。

またご質問・お問い合わせ等も当会サイトにて承っております。

東京江古田会 <https://tokyo-ekodakai.jp/>

大竹康道（文芸学科 昭和53年度卒）



江古田会支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。（TEL.03-3554-5363）

■宮城江古田会の総会では各人が近況を報告しています。普段は触れることがなかなか出来ない同窓生の活躍を知って、自分も活性化しないと！と思って刺激になっています。

■実は大学から東京を離れていて日芸とは疎遠でした。同級生にも何十年も会っていません。大学を忘れていた時に息子の高校の吹奏楽の定期演奏会の会場で「日芸コンサート」と文字があるチラシを見つけました。「日本芸能協会がなんだろうなあ？」と思いながら手に取ると、母校の名前ではないですか？！東北の地での出会いに興奮しました。早速、主催者に連絡をとったら江古田会に繋がったのでした。どんな縁が発展して交流が始まるか人生はわかりません。



■先日、その主催者のコンサートを鑑賞しました。プロの演奏家のコンサートは胸を打つ出来栄で鳥肌が立ちました。これから活躍するトリオ（ピアノ、バイオリン、チェロ）なので関係者で全面的に応援したいと思っています。同窓会の人脈を駆使して全力バックアップできないものかと考え始めています。ネットも活用して画期的な支援が出来ないものなのでしょうか？昔の話を懐かしむばかりではなく、今の友をサポートしていくのが同窓会の役割じゃないのかな？と個人的に思っています。日芸のたくさんの学科の得意な方面でまずは情報発信をして盛り上げていけると幸いです。音楽をコアに企画して、演出し、舞台を創出し、それを映像に残して伝播させていく事ができれば日芸の総合芸術として胸をはれと夢が膨らみます。日芸なら出来るはずだと、思っています。東北から全国へ。そして、世界へ！



※ピアノが日芸出身 高橋咲千子

森廣孝志（放送563年度卒）

佐賀で「映画学科技術コース」が5人も集合

4月、劇場用公開映画（来年上映予定で題名未発表）の佐賀ロケが、行われた際、空き家にしている私の旧宅がロケ地として使用された。先ず現場で、撮影監督の山崎裕さんを紹介され、私が日芸映画学科卒の話をしたら、何と山崎さんは3年先輩であり、懐かしい先生や学生の話で盛り上がった。特に八木信忠先生はお互い学生時代から親しくしていた存在で、直ぐに携帯で連絡を取られ、3人での会話となった。また、このロケのスタッフに映画学科でしかも技術コースの卒業生が4人も参加していることが分かり、あまりにもの偶然に驚きと喜びとで興奮してしまいました。

山崎 裕（昭和38年卒） 株式会社104代表、撮影監督
是枝裕和監督作品の撮影が多い「ワonderfulライフ」「誰も知らない」

※日芸時代 進駐軍払い下げの自動現像機管理が大変だった。

荒木 孝真（平成13年卒） 株式会社アラキंक代表
CM、ドラマ、映画の企画制作。「愛に乱暴」の助監督。「あこがれの色彩」プロデューサー

※日芸時代 現像場、静電気が怖く裸でスプライサー。

栗原 崇（平成17年卒） 撮影部チーフ
是枝裕和監督作品「歩いても歩いても」「奇跡」

※日芸時代 お酒を酌み交し友人と映画、人生の話をしていた。

中山 リセ（令和6年卒） 株式会社104入社、撮影部

※日芸時代「誰も知らない」に興味を持ち、山崎さんが学んだ日芸に入学。卒業制作「ラストアルバム」で映画学科奨励賞を受賞。

聞き手・書き手 佐賀江古田会 光野 忠利（昭和41年卒）

※日芸時代 録音研究会。東映動画撮影部入社後サガテレビ開局時入社。

◎鰻屋での会食は皆が江古田にタイムスリップ。映画学科の思い出話で大賑わい。同窓生の皆さんの益々の活躍を祈っています。



（写真）左から中山さん、栗原さん、山崎さん、光野、荒木さん

今年3月に開催された日芸ふくしま音楽祭の写真です。若い人が大勢いるでしょう。宮城江古田会から若手が来てくれました。石川江古田会からもお越しいただきました。もちろん福島 of ヤングも演奏し幅広い世代が音楽で交流できたイベントでした。福島、宮城、石川は地震つながりですが、お互いの地域の復興と江古田会同士の交流が盛んになるよう音楽が役立てばいいと考えています。



今回は鉄道と音楽を絡めた企画もやりました。福島を舞台にした「高原列車は行く」、「汽車」などの曲をピアノで演奏。メロディーにあわせ写真学科のOBが自慢の鉄道写真を紹介しました。会場には鉄道ファンもいて公演終了後も「鉄ちゃん同士」熱く語り合っていました。今までにない光景でした。



さて、音楽祭は来年3回目を迎えます。今回は昭和100年にあたるため懐かしの昭和歌謡特集を予定しています。ポップス、演歌、フォークソングなどの流行歌を歌い演奏し一懐かしき歌の記憶ー昭和を振り返ろうという内容です。福島にゆかりのある曲も披露予定で、歌手と楽器演奏者を募集中です。協力しますというOBの方々、ご連絡をお待ちしております。来年4月郡山市で開催予定です。

（会長 酒井泰彦 090-5353-1820）

宇土櫓復旧工事今だけこの目で ～熊本地震から8年～



熊本地震直後の宇土櫓 右側に倒壊した続櫓

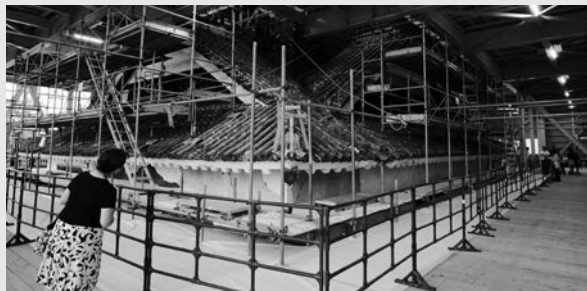
■お城の天守閣はだいたい大と小の二つがあたりまえです。しかし熊本城には第三の天守閣があります。正式名は宇土櫓。三重五階・地下一階高さ19mの立派な櫓です。城内でもほぼ創建時のまま残る建物で国の重要文化財になっています。この宇土櫓も2016年4月の熊

本地震で大きな被害を受け、横の続櫓は全壊、本体も瓦は落ち、ひびが入り何とか建っている状態でした。城内では今あちこちで復旧工



熊本地震前の宇土櫓内部

事が実施されていますがこの宇土櫓もようやく今年度から解体保存工事が始まりました。そして4月から毎月第二日曜日に工事現場見学会が開かれています。普通であれば見上げる高さにある屋根や壁の部分を目の前で見る事が出来るのはまさに今だけ、もし熊本を訪れる機会のある方は是非月の第二日曜日を日程に入れて御覧ください。完成は2032年度何とかこの目で見たいですね。ところで39回目の今年度の熊本江古田会総会は8月3日に開き新入会員、来賓も含め20人が出席していつもながらの楽しい夜を過ごしました。



見学通路から見る宇土櫓

熊本江古田会 会長 奥村隆志

第26回北海道江古田会総会は、去る令和6年7月20日、札幌東急REIホテルで賑やかに開催されました。

当日は、校友会から、宮沢 誠一常任幹事にお越し頂き、総勢25名が出席、大川原儀明（放送）さん、作家の河治和香さんや北海道新聞の西村昌晃さん（ともに映画学科）などの初参加者をお迎え、学生時代の思い出を大いに語り合っ、恒例のマジックショーや豪華賞品ビンゴ大会を楽しみ、盛り上がりしました。



さて、私の学生時代の思い出は、やはり雀荘がらみです。

江古田の雀荘「旭」は、クラブ活動や放送学科（＝私）の連中のたまり場でした。

時は、試験期間の真最中、朝早い試験の場合、私はどうしても起きられなくて、困っていました（大塚に住んでいました）。そこで苦肉の策は、雀荘で徹夜マージャンをして、そのまま試験に挑むということです。

教科は忘れましたがノート持ち込みOKだったので、前の日に友達からノートを借り、私が徹夜マージャンをしているあいだに後輩にそのノートを写してもらって、時間がきたら眠たい目をこすりながら、雀荘から鉛筆と消しゴムを借り、教室へ。

後輩に感謝しながら試験を受け、このピンチ（！？）を乗り切った記憶が、今でも昨日のここのようにありありとよみがえります。

またある時は、最終電車で大塚に帰ると、ビールの空き箱で作ったベッドがひとつの6畳間に、なぜか家に帰れなくなった5人もの男達がすでに寝ていて、しかたなく片すみに小さくなって寝るしかありませんでした。

翌朝は、北海道の実家から送ってきた貴重なインスタントラーメン「サッポロ一番しょうゆ味」を6人分、私が鍋で作り、その鍋から直接みんなで食べ、それから学校へ行く、というような具合でした。

そんなハチャメチャな学生時代が、今は懐かしい思い出です。

北海道江古田会会長 氏家 曹一

江古田会支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。（TEL.03-3554-5363）

鹿児島江古田会

今年も江古田にいたあの頃に戻った一日。

2023年度鹿児島江古田会総会



■2023年12月2日、今年も待ちに待った、鹿児島江古田会総会が鹿児島中央駅近くの「寿庵」で開催されました。

ご来賓に芸術学部校友会副会長で、写真学科特任教授の高橋 則英様、佐賀江古田会事務局長の土井 洋様、熊本江古田会事務局長の川村 晃生様、さらに熊本江古田会から岡野 康弘様、岡野 万里江様、そして日本大学校友会鹿児島支部支部長の吉留 厚宏様を迎えて、にぎやかに開催されました。

■この日を楽しみにしていたことが伝わる表情で集まってきた皆様。荷物を置く間も惜しいかのように、久しぶりの再会を懐かしみおしゃべりの輪が広がっていました。

鹿児島江古田会の平原 志保副会長の一声で幕を開けた鹿児島江古田会総会は、鹿児島の夕方の顔、坪内アナウンサーの司会のもと乾杯、そのまま大先輩から若手まで楽しく語り、盛り上がる夜となりました。

■鹿児島江古田会恒例の、マイクを使った芸術パフォーマンス大会（いわゆる二次会）では、会場を天文館の「白夜」へと会場を移し、こちらも笑いの渦に包まれました。

80を超えてもしっかりと響く声、往年の大歌手のモノマネ、コロナ禍をきっかけに誕生した新たなパフォーマンス、アーティストならではの感性での歌の表現、そして喋りも加えながらもしっかりと尺に収める話術などなどあつという間に時間は過ぎてゆきました。

懐かしい江古田で過ごした青春時代、所沢校舎の思い出、課題や実習のエピソードなど、日藝で熱く、楽しい時間を過ごした同志だから年齢と性別を越えて共有できるひと時でした。

山形江古田会

昭和62年度放送学科卒の井澤です。山形江古田会では幹事長を仰せつかっております。当会もようやくコロナ禍が明け、6月に開催してきた総会・懇親会を5年ぶりに開催することが出来ました。芸術学部からは校友会常任理事の宮澤誠一名誉教授にご来臨頂き、来賓には大学校友会県支部長の篠原様、日大山形校長の渡部様含め13名での開催でした。残念だったのはコロナ前までご出席いただいていた先輩会員が、鬼籍に入られたり高齢のため欠席されたりと、お会いできなかった方も多かったことです。5年ぶりゆえ積もる話が更に積み上がり、少数ながらも大いに盛り上がる会となりました。



さて、ここからは地元山形のお話を少し。

全国的に連日酷暑が報じられた今夏。山形も他間に漏れず厳しい夏となりました。初夏の風物詩として知られるさくらんぼも甚大な影響を受け、前年の高温障害で双子果が多くなり、成熟期の高温で肥大が不十分な内に実が潤む障害が起こりました。収量が減産した一方資材費や人件費などは減らず、生産農家は頭を抱える状況です。拙宅にも親の代からのさくらんぼが少々ありますが、特に佐藤錦の高温障害が目立ちました。比較的高温に強い品種もあり、双子果は間引きの手間をかければほぼ例年同様に収穫ができましたが・・・ならば品種を変えれば良いではないか。ですが、事はそう簡単ではありません。苗を植えてからある程度の収量が得られるまでには10年近くかかりそうで、廃業してしまう農家も多いと聞きます。

さて、ウチはどうしたものか。10年後であれば何とかできそうな気もしますが、私はサラリーマンで素人農家。今後10年以上もできるのか、悩みが増えた還暦です。

石川江古田会

●能登半島地震のご支援とお見舞い、ありがとうございます！

発生間もない頃より校友会本部や全国の江古田会支部からお見舞いのご支援を頂き、石川江古田会会員一同、大変感謝しております。紙面を借りまして、改めて御礼申し上げます。

石川江古田会は、本年度設立10年を迎えます。節目の記念行事として、10月26日(土)に『日芸コンサート石川』を金沢市内のANAクラウンプラザホテル金沢で開催いたします！カンツォーネ歌手の加藤ジュンコさんをお招きし、宮城江古田会をはじめ、日芸ご出身の皆様にもご出演を賜ります。音楽の力で震災復興に向けて頑張ります！

●支部会報誌の企画で、今年は長野江古田会の皆様と交流しました！

2021年から行っている『呑み芸』企画。この企画は、石川江古田会の会報誌編集部が全国各地の校友会支部の皆様と交流させて頂き、支部同士のご縁を広めようという企画です。第3回目の今年は長野江古田会の皆様とお会いしました！松本市へ1泊2日の旅、お集まり下さった5名の会員の皆様とお食事をしながら、支部が発足した当時の貴重なお話、長野県の魅力などについて語り合いました。

長野県民が愛するソウルフード「ビタミンちくわ」は、昭和初期から石川県で製造されているにも関わらず、なんと長野県民が7割以上を消費している商品！



じつは深いつながりがあると知り、大変嬉しくなりました。今後も、全国の校友会支部をご訪問させて頂く予定です。皆様とお会いできるのを楽しみにしております！



江古田会各支部のご紹介

江古田会は、現在国内18カ所、海外3カ所に設けられ、地域ことの日藝校友のための組織です。

お住まいの地域にも校友会支部があります。生まれ育った地域では強い絆を育んでいます。

なお、各江古田会では、新しい会員の加入を歓迎しています。

江古田会は支部総会や講演会の他、イベント等の開催をおこなっています。

是非とも、在住する国内・外の総会や講演会に足を運んでみてください。

江古田会にご興味がありましたら、お気軽に校友会事務局までお問い合わせの上、活動にご参加ください。

心よりお待ちしております。



江古田会支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。(TEL.03-3554-5363)



越前から江古田、そして、インドへ。

演劇学科 548年 1973年度卒業 向瀬杜子春

受験生の間で大ブームとなったラジオの深夜放送からは、天井桟敷の女優カルメン・マキの「時には母のない子のように」や、由紀さおりのヒット曲「夜明けのスクヤット」が流れていた。全国各地では学園闘争の嵐が吹きまわっている。そんな1969年、秋。福井県立武生高等学校・文化祭の新聞部の部室。編集長兼部長だった私が展示テーマとしたのが「大学闘争」。部室には赤ヘル、青ヘル等セクトの再現ヘルメットに模擬火炎ビン、新聞社より取り寄せた大学闘争の報道写真、「叛逆のバリエード日大闘争の記録」、ゲバラや毛沢東の肖像写真、東大闘争獄中書簡集、全国大学自治会への質問状と回答一覧などを展示した。地元紙に取り上げられるなど話題になり、他校からの来場者等で賑わった。しかし保守王国福井の進学校である。顧問が校長に呼び出され展示中止の宣告を受けたという。が、拒否。二十数年後の新聞部同窓会で顛末を明かされ元部員は拍手喝采。

そんな高校生だった私はドキュメンタリー番組や報道写真に関心を持ち、漠然と

「作家」になることを思い描いた。そのために行くべきところは「日芸」と決め入学したのが「演劇学科演出コース」だった。

1970年、春。日芸キャンパス中庭で時折見かけるセクトの集会と、独特のリズムで語られるアジ演説。時代を象徴する立看(タテカン)文字。正門前で詩集を手売りしている秋田明大・日大全共闘議長の姿は、明らかに高校時代にはなかった景色として映っていた。日大闘争焼け跡派(と勝手に名付けていた)の演劇学科同期生たちは、演出、演技、舞台美術、照明各コースの座組で上演に取り組む「総合研究」のレパトリー会議の設置、新たなゼミ立ち上げの交渉などを演劇学科と重ねていた。その中心人物の一人が、1987年に東京演劇集団風を旗揚げした演出コースの浅野佳成くん、そして、学科の窓口だったのが松原剛先生だった。生来の押しの強さ(武闘派?)と理論派頭脳なのか、彼はいくつもの難題、課題を研究室(というよりは松原先生に)ぶつけては実現させ、結果、「総合研究」

は学生の望む方向へと進み、ブレヒト・ゼミも誕生した。同時に「劇団メタセコイヤ」など同期の学内劇団が活発に上演活動を始めていた。

私は2年次から「総合研究」を受講。演出コースで制作担当の下哲也くん(後に劇団俳優座の制作部所属)から演出に指名され、「木口小平氏は犬死」(作:宮本研)、「カールのおかみさんの銃」(作:ベルトルト・ブレヒト)、「浄化」(作:テネシー・ウィリアムズ)に携わることが出来た。

余談ながら……。浅野佳成くんの劇団が自前の劇場、レパトリーシアター KAZE を完成させた折、われわれ同期生たちと共に松原剛先生もお祝いに駆け付けた。先生の祝いスピーチ「わたしの教職員時代で一番迷惑をかけられたのが、ここにいます浅野佳成君であります」。松原先生最大の誉め言葉に一同爆笑!

3年時の「総合研究」も終わった頃、学生課で見かけたのが、放送作家・演出家・作詞家として一世を風靡していた塚田茂が主宰する【スタッフ東京】の募集告知だった。

テレビ番組やイベントの企画・構成・制作など幅広く行っているというので応募。研修を経てスタッフとして採用されたのだが、そこで既に放送作家として活躍していたのが、高田文夫先輩（放送学科）、松岡孝先輩（放送学科）たち日芸 OB だった。放送業界は活況を呈していたものの、イベント業界はまだ黎明期。しかし、大阪万博（昭和のです）で今までの日本にはなかった演出、音響・照明、装置デザイン等のノウハウを蓄積した先輩たちが事務所を闊歩していた。やがて、国立競技場でのサッカーの神様ペレと釜本選手の観客 5 万人超えの引退試合や、後楽園球場、鈴鹿サーキット、武道館など話題のビックイベント、コンサートの中心にはいつも塚田茂師匠と弟子たちスタッフ東京メンバーがいるようになっていた。

テレビ番組で忘れられないのが武道館から生中継された「日本民謡大賞」（日本テレビ）。冒頭で森繁久彌が語るナレーション原稿を担当、自分の書いたものが全国に放送されているという事実に身震いした。

NHK の子供番組「600 こちろ情報部」では鯉の一本釣り漁船に一週間余り乗船するなど、数多くの貴重な体験と取材を経験した。シナリオハンティングと事前取材、準備稿、撮影、編集、放送までディレクター、カメラマンと作家がワンチームで臨むシステムは、さすが NHK ! の感が否めなかった。

インド Santiniketan にトタン屋根と煉瓦造りのアジト完成 !

40 代前半でフリーとなり、テレビ番組や企業の VP、イベントや舞台の企画構成・演出家として活動を始めた。そんな頃に出会ったのが演劇学科同期で戯曲コースだった中村仁、通称 JIN クン。日芸を中退して留学したのが、アジア人初のノーベル文学賞を受賞したラビンドラナート・タゴールが創設した大学だった。（コルカタ北部の最



近世界遺産に登録され話題の Santiniketan にある）。古典音楽のシタール等を学び日本人初の修士号的な資格を授かったという。10 年余りの留学中のエピソードはどれもが刺激だった。インドの先住民サンタル族の友を得た彼は何と開墾を始めたという。湖畔に井戸を掘り、電気をひき、家を建て、サンタル族の新たな集落、その基盤を作ったのだ。今では伝説の JIN と友達というのが村人のステータス?! とか。帰国後も年に一度は訪れている、というので 2004 年に同行させて貰った。ちょうどサラスヴァティープジャという春祭りの時期で、古びたトランペットスピーカーからはインド独特の節回しの歌声が昼夜問わず大音量で流されていた。漆黒の間には無数の蛍、土塗りの伝統的な家、着ているもの全てが眩い色合い、携帯電話も冷蔵庫もなく素朴な人々の暮らしが息づき、ゆったりと時間が流れている・・・。自転車で 40 分近くの村では夜、若者たち二十名あまりがサンタル族の伝統的な歌と踊りを披露してくれた。米を発酵させた濁酒もどきと持参したアタリメとの相性は抜群！子どもたちは屈託なく「チョビ（写真）！チョビ」と言いながら寄ってくる。

そんな時に目が合ったのが、手づくりの歩行器でヨチヨチ歩く男の子ブンノチャンドラ。なぜか直感的にこの子を撮り続けようと決断したのだ。以降、年に一度のペースで村を訪れ、数年後には JIN ハウスの隣に【アシヤ・ゴール / 希望の部屋】という名のトタン屋根に煉瓦造りのバラックを建てさせて貰った。土壁の塀に張り巡らせた紐に洗濯バサミで写真パネルを展示する青空写真展を行い、子どもたちにプレゼントした。村の専属カメラマンを自称する私は年月を重ねるうちに村人の家の中に招かれるようになり、日常の暮らしや家族の撮影も可能になった。彼たちの成長と暮らしを写真集【Santiniketan 平和郷の子どもたち】（七月堂・刊）として出版、更には原一平クン（元演劇学科主任教授）の尽力により日芸ギャラリーでの個展開催も実現した。

現在は、チンタさんという滞在中お世話になっている女性とのベンガル語と日本語との珍会話エピソードをエッセイと写真でまとめようと、鋭意、奮闘中。

向瀬杜子春（むこせとしはる） 本名：俊春 構成作家・写真家 福井県越前市出身 昭和 45 年演劇学科・演出コース入学 在学中より塚田茂（放送作家・演出家 / スタッフ東京代表）に師事 スタッフ東京から企画・制作会社を経てフリーとなり企画・構成作家としてテレビ番組・舞台等の企画構成・演出に携わる 2004 年からインド・シャンティニケタンを訪れ先住民サンタル族の子供たちの暮らしと成長を撮り続けている サンタル族の写真で「第 21 回日仏現代国際美術展」（国立新美術館）サロン・ブラン会長賞受賞 2017 年写真集「Santiniketan 平和郷の子どもたち」（七月堂：刊）出版





写真学科

■GRIP2024 日本大学芸術学部写真学科学生選抜展開催

6月20日(木)から6月26日(水)まで、四谷のポートレートギャラリーで在籍者全員を対象とする公募で選ばれた7人の作品を展示しました。選拔者とタイトルは、4年生の黄蔚晴「最後まで」京藤和「あなたへ」梶山裕生「あすも飛ぶ」増子莉緒「めいちゃんのきろく」、3年生の大野晴山「俯瞰で見る空の玄関口II Narita」加納拓実「Pray for」國分唯斗「剣士」です。



■4月から准教授として写真家のGOTO AKI先生が着任しました。またGOTO先生の写真展「TERRA 2024 - 身体と空間 -」が、キヤノンギャラリー銀座で6月4日(火)から6月15日(土)まで、キヤノンギャラリー大阪で7月30日(火)から8月10日(土)まで開催されました。6月8日(土)には写真学科講師の小高美穂先生とギャラリートークがあり、会場を埋め尽くすほどの聴講者が集まりました。



■アルル国際写真フェスティバルは今年で55回目となる最も古く、規模の大きい国際写真祭として知られています。今回、このフェスティバルの公式企画の1つ「レプリカー 2011/03/11 大震災に立ち向かう日本人写真家」(会場: Espace Van Gogh)のグループ展示9名の1人に鈴木麻弓先生が選ばれました。また別に京都グラフィー10周年で企画された「10/10現代日本女性写真家たちの祝祭」展から6名の写真家が選ばれ「TRANSCENDENCE(超越)」(会場: Vague)で鈴木先生は「豊穡」を展示しました。両展示とも7月1日(月)から9月29日(日)のフェスティバル期間中展示されました。



■写真展「Happy! Happy! Happy!」開催

芸術学部芸術資料館で6月18日(火)から7月5日(金)まで29名の写真家による94点の作品で構成したオリジナルプリント展を開催しました。100年前のアジェやハインの作品から近年、木村伊兵衛賞を受賞した藤岡亜弥、土門拳賞を受賞した高橋智史の受賞作品まで幅広く展示しました。

■写真学科の直近情報は下記をご覧ください



公式ホームページ



公式X (旧Twitter)



映画学科

■今年度のオープンキャンパスは6月30日(日)、8月4日(日)の両日行われました。

「学科紹介・説明」「コース紹介・説明」「模擬授業」「映画学科施設見学ツアー」「進学相談」が行われ、どのイベントにも多くの受験希望者が参加し、熱心に説明を聞いていました。また、コース別に行われる進学相談会も盛況で、映画関連のクリエイティブな仕事の人気は依然衰えていないと感じたオープンキャンパスとなりました。



撮影スタジオ見学



模擬授業のようす

■恒例の12月に開催される、映画学科映像表現理論コースの「映画ビジネスゼミ」が企画して行う映画祭のテーマは「声をあげる」になりました。「映像ビジネスⅣ」の受講者である3年生が中心となって準備を進めています。

今年も渋谷のユーロスペースにおいて、12月7日(土)～13日(金)に行われる予定です。もしお時間がありましたら、校友の皆様も是非一度、ご来場ください(有料です)。



美術学科

■絵画専攻

- ・六花亭アートヴィレッジ中札内美術村企画公募展の「はたちのりんかく」にて絵画専攻2年生の松田啓吾さんが優秀賞、永田琴乃さんがクサカベ賞、尾崎優さんが名村大成堂賞を受賞しました。
- ・「新進アーティスト作品展vol.22—Art Generation 2024—」にて、絵画専攻2年生の菊池美月さんが優秀賞を受賞しました。
- ・雪梁舎美術館主催の絵画展「第26回フィレンツェ賞展覧会」にて、絵画専攻の金子貴富助教が捧賢一賞、昨年度修了した関佳奈子さんが佳作、大学院1年生の野村日向さんが入選されました。

■版画専攻

- ・第2回極小版画コンテスト「中原中也・詩の世界」にて版画専攻の松原百香さんが文房堂賞を受賞、修士課程在籍の青柳有華さんが特別賞を受賞しました。
- ・2024年度一般社団法人CWAJにて修士課程在籍の青柳有華さんがヤング・プリントメーカー賞を受賞しました。
- ・版画専攻では5/6に校外授業として「手漉き和紙たにの」さんに伺い紙漉き体験を行いました。レクチャーを受けながら紙を漉く工程を体験したり、和紙に関するお話を伺いながら原料の楮（こうぞ）畑も見学しました！
- ・藤原成一先生 特別講義 A&Dギャラリーで教授の笹井祐子先生と共同で出版された本について藤原成一先生をお招きして特別講義を行いました！A&Dギャラリーの展示は本に掲載されている学生たちが制作した作品です。

■彫刻専攻



「ART IN THE OFFICE 2024」受賞アーティスト、植松美月さん。「ART IN THE OFFICE」は、現代アートの新進アーティストを支援する場づくりを行うというもので、今回、本学卒業生の植

松美月さんが受賞選出されました。紫のインクで染めたA0サイズのコピー用紙に、自分が意識した1日の呼吸数をナンバリングスタンプで刻印する作品を制作。それに伴うWSが行われました。



音楽学科

■令和6年度音楽学科演奏会は下記のものになります。いずれも入場料無料ですので気軽にお越しください。

●第53回ピアノコンサート

令和6年11月13日（水）16時30分開場／17時00分開演
於：練馬文化センター小ホール

●第36回弦管打楽コース定期演奏会

室内楽&ウインドオーケストラ定期演奏会

令和6年11月19日（火）18時30分開場／19時00分開演（予定）
於：練馬文化センター大ホール

●第55回オペラ公演

令和6年11月27日（水）17時30分開場／18時00分開演
於：練馬文化センター小ホール

○指揮：江上孝則 ○演出：岩田達宗

<演奏曲目>W. A. モーツァルト／歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」ハイライト／原語上演

●令和6年度大学院修了演奏会

声楽・管打：令和6年12月11日（水）開演時間未定

ピアノ：令和6年12月20日（金）開演時間未定

於：芸術学部 音楽小ホール

●第45回新作室内楽の会

令和7年3月1日（土）開演時間未定

於：芸術学部 音楽小ホール

●令和6年度修了演奏会

令和7年3月5日（水）開演時間未定

於：練馬文化センター小ホール

●令和6年度卒業演奏会

令和7年3月10日（月）開演時間未定

於：練馬文化センター小ホール

●SWITCH2025

令和7年3月8日（土）・9日（日）開演時間未定

於：芸術学部 東棟、南棟他

情報音楽コース有志による作品展示及びライブエレクトロニクスコンサート

※上記演奏会の開演時間、曲目は変更となる場合がございます。

詳細は音楽学科ホームページ、公式SNSをご確認ください。



音楽学科HP



X (旧 Twitter)



Instagram



文 芸 学 科

■中島リュウさん、小学館ライトノベル大賞・優秀賞受賞

文芸学科・文芸学専攻卒の中島リュウさんが、第18回小学館ライトノベル大賞・優秀賞を『砂漠海賊レイメイ様の逆ハー冒険航海日誌! (予定!!)』で受賞しました。受賞作は『砂の海のレイメイ 七つの異世界、二つの太陽』に改題され、小学館ガガ文庫の7月新刊として発刊されています。中島リュウさんはすでにオーバーラップ文庫での既刊もあるライトノベル作家ですが、新たなレーベルへと活躍を広げる一歩となりました。

■湯谷良平さん、「仙台短編文学賞」仙台市長賞を受賞

文芸学科卒の湯谷良平さんの作品が、第7回「仙台短編文学賞」仙台市長賞を受賞しました。全応募作品382編の中から仙台市長賞に選出された湯谷さんの作品「ポリエステル伝導」は、『被災学』(2024年3月30日発売)に掲載されました。

■nostalgiaさん、日本現代詩人会の2024年第8回H P 現代詩投稿欄「新人」に選出

文芸学科卒のnostalgiaさんが、日本現代詩人会の2024年第8回H P 現代詩投稿欄「新人」に選出されました。「詩語の構築力とテンションを徐々に高めてゆく展開感で魅了するnostalgia氏の作品には、利他的かつ肯定的価値観が内包されています」と評価されての選出となります。

■渡邊あみさん、ひとり文芸ミュージカル「紫式部一雲隠れ」短歌コンテストで優秀賞を受賞

文芸学科4年生の渡邊あみさんが、ひとり文芸ミュージカル「紫式部一雲隠れ」短歌コンテストで優秀賞を受賞しました。

■『連句年鑑』に昨年度の浅沼ゼミⅡの連句が掲載されました。

日本連句協会が刊行する『連句年鑑』(令和六年版)に、昨年度の浅沼ゼミⅡで巻いた連句 脇起オン座六句『呼吸はつかに』が掲載されました。

■「江古田文学」第116号 特集・境界から世界を見つめる

文芸学科専任講師・小神野真弘先生の責任編集となる特集は「境界から世界を見つめる」社会の分断や異文化共生について掘り下げています。2024年7月26日に発刊しました。



演 劇 学 科

■令和6年度の演劇学科

演劇学科は以下専任教員、助手と舞台芸術の研究、教育に学生と力を合わせて頑張っております。校友の皆様の変わらぬご支援を引き続きよろしくお願い致します。

奥山 緑 (教授・学科主任)	主な担当授業「演劇概論Ⅰ/劇場論Ⅱ」
小林直弥 (教授)	主な担当授業「演劇史Ⅰ/舞踊学」
中野成樹 (教授)	主な担当授業「演出演習/演出論」
范 旅 (教授)	主な担当授業「舞踊特殊実習/総合実習」
松永雅彦 (教授)	主な担当授業「西洋舞踊実習/総合実習」
松山 立 (准教授)	主な担当授業「演劇史Ⅱ/演技実習」
山口英峰 (准教授)	主な担当授業「舞台技術研究/総合実習」
青木拓也 (専任講師)	主な担当授業「舞台美術実習/総合実習」
南 香織 (専任講師)	主な担当授業「照明演習/照明実習」
今井春日 (助教)	主な担当授業「音響実習/総合実習」
大池容子 (助教)	主な担当授業「劇作実習/総合実習」

伊東あおい (助手) 大迫美乃莉 (助手) 加藤響之介 (助手)
田中幸乃 (助手) 弓削風佳 (助手) 渡邊康太 (助手)

■演劇学科国際交流

2024年5月中国 北京で開催された「第7回アジア演劇大学大学生演劇祭」と6月ルーマニア シビウで開催された「シビウ国際演劇祭2024」に演劇学科生が中心となって制作した作品を上演してきました。学生にとっても演劇学科にとっても大変貴重な経験となりました。



ルーマニア シビウにて現地スタッフの方と



演劇学科HP



演劇学科 Instagram



演劇学科X (旧Twitter)

※フォローよろしくお願いいたします。



放 送 学 科

■【ACジャパン広告学生賞】大賞を受賞

第20回『ACジャパン広告学生賞』テレビCM部門において、放送学科4年生・岩川佳士乃さんを中心とするチームがグランプリを獲得しました。

『ACジャパン広告学生賞』は数ある学生広告賞の中でも、公共広告をテーマにした審査基準が厳しい賞として知られています。今回は放送学科からグランプリの他にも3作品が優秀賞を受賞しています。

グランプリを獲得した作品『募集要項』は、この7月から1年間、ACジャパン後援社であるBS民放11局で放送されます。

詳細は以下のサイトをご覧ください。

<https://www.ad-c.or.jp/campaign/cm/recruit.html>

■卒業生が大宅壮一ノンフィクション賞を受賞

放送学科卒業生で時代劇／映画史研究科・春日太一さんが第55回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞されました。

受賞作『鬼の筆 戦後最大の脚本家・橋本忍の栄光と挫折』は、『羅生門』『七人の侍』『私は貝になりたい』『砂の器』などを執筆した脚本家・橋本忍氏の評伝で、十数時間に及ぶインタビューと関係者への取材、創作ノートなど遺族から託された膨大な資料を元に、映画人・橋本忍の真実に迫った力作です。受賞、おめでとうございます。

■フジテレビ『ぼかぼか』生中継を放送学科学生が担当

7月9日（火）～11日（木）の3日間、フジテレビで放送されているバラエティー番組『ぼかぼか』（毎週月曜～金曜11時50分～13時50分放送）の中の企画コーナー「神田愛花は再びNHKに出られるか？プロジェクト」内での生中継が放送学科のテレビスタジオ・録音スタジオから行われました。デビューが決定したSHOW-WAというグループが歌唱する様子を生中継する内容で、10日と11日の2日間、この生中継のカメラ（4台）・スイッチング・音声・照明を、映像技術・音響技術実習の学生が担当し、全国放送されました。またテレビ制作実習の学生を中心に曲のカット割りを行い、その模様も放送されました。

■エフエム大阪「らぶゆ～おおさか」に放送学科学生が出演

6月26日（水）～8月7日（水）の7週間にわたって、エフエム大阪で放送されている『らぶゆ～おおさか』に放送学科の学生が出演し、大崎洋氏（元吉本興業会長）と鎌田和樹氏（元UUUM会長）と共にトークを繰り広げました。



デ ザ イ ン 学 科

■JAGDA国際学生ポスターアワードにデザイン学科学生が多数入選の快挙

国内外の優れた若い才能の発見と顕彰、およびグラフィックデザインの新たな発展と進化を目的に日本グラフィックデザイン協会が主催するJAGDA国際学生ポスターアワードの入選者が8月26日に発表となりました。デザイン学科からは9名の学生が選出されました。引き続き三次審査が行われたのち、11月27日（水）～12月9日（月）まで展覧会が開催予定です。

■世界ポスタートリエンナーレトヤマにてデザイン学科教員が入選

世界から最新のポスターを公募し、審査・選抜する、日本で唯一の国際公募展、「第14回世界ポスタートリエンナーレトヤマ」にて笠井則幸教授、大河原健太専任講師、井原靖章講師、玉置太一講師が入選しました。2024年10月12日から12月15日の期間、富山県美術館で作品が展示されます。総数4457点の応募から390点が入選となりました。10月に上位入賞が発表となる予定です。

■東京ADCにて玉置太一非常勤講師がADC賞、笠井則幸教授が入選

ポスター、新聞、雑誌、テレビ、ウェブなど多種のジャンルの中からその年度の優れた広告、デザイン作品を選出する東京ADC2023（東京アートディレクターズクラブ）にて玉置太一講師がADC賞を受賞、笠井則幸教授が入選しました。

■若原一貴教授が個展を開催

6月20日から26日にかけてパリ（フランス）のGalerie Sate-lliteにて若原一貴教授の個展が開催され、これまでに設計した小住宅の模型と写真が展示されました。展覧会はその後6月28日から7月2日にポルト（ポルトガル）のESTETA GALERIAにも巡回されました。

■大学院生裘夢雲さんがJIA Illustration Award2024にてグランプリ受賞

本学博士後期課程に在籍している裘夢雲さんが、JIA Illustration Award2024で、グランプリを受賞しました。裘夢雲さんはサイエンスイラストレーションの研究をおこなっており、博士前期課程で制作したヤンバルクイナの生態を精密に表現したイラストレーションが高く評価されました。

■C-IDEA Design AwardにてBronze Awardを受賞

笠井則幸教授がC-IDEA Union（オーストラリア）主催のC-IDEA Design AwardでBronze Awardを受賞しました。ANBD Tokyo Exhibition 2023のポスター、マークなどのビジュアルアイデンティティに対して評価されました。

ウンレン・ブンレン

運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中

文化部連盟 フォークソング倶楽部

フォークソング倶楽部は、邦楽・洋楽ロックバンドの曲やオリジナルの曲など、多様なジャンルの曲を演奏しています。部員は合計52人在籍しており、学年・学科に関わらず様々なメンバーでバンドを組んで活動しています。

現在は、コロナ禍の影響もおさまってきており、活動の幅が広がっています。部員が増えたことにより、誰でも部室を使用できるようにするために掃除をしたり、机や椅子を新調して綺麗な部室ができました。部員同士で話しながらゆったり過ごせる空間となっています。

今年度の活動は、新入生歓迎ライブから始まり、新入生が中心となってバンドを組んだ新入生ライブも行われました。今後は夏合宿や日芸祭ライブなど様々な活動を予定しています。

また、日芸祭では大ホールで行うライブの他に、一昨年から続けているチュロス屋台を出店することを企画しています。シナモン味や抹茶味などのフレーバーで提供します。この活動では協力してチュロスを販売するので、部員同士の仲が深まる重要な活動の一つとなっています。

年間を通して音楽活動を行い、1年生から4年生まで関わり合いながら仲を深め、楽しく活動をしています。機会がございましたら、日芸祭にてフォークソング倶楽部の活動を見ていただきたいと思います。

音楽学科3年 石井晴菜

写真：写真学科1年 田中楓子



文化部連盟 熱血漫画根性会

熱血漫画根性会——そう聞いて身構え踵を返そうとした方々、少し待って欲しい。

各々がオタク文化黎明期を彷彿とさせる、熱血を謳い根性論で作業を強制してくるようなサークルを思い浮かべているだろうが、それは実態とは大きくかけ離れている。熱血漫画根性会、通称ネマコンとは、命を燃やし身を削って創作をするような場所では決してなく、意欲のある作家を相互補助する交流の場なのである。1人で創作活動をしてきたけど、伸び悩んできた。意欲はあるけど、何から始めたらいいかわからない。グッズが出したいけど、勇気が出ない。イベント参加したいけど、やり方がわからない。この様に個人の活動に限界が来た人々が互いの知恵を貸しあい、サークルという後ろ盾を得て一步ステップアップできる交流の場、それこそが本来の熱血漫画根性会の姿だ。

創作活動とは往々にして孤独なものだが、同じく苦業を共にする仲間がいるという事実は、必ず貴方の心の支えとなる

だろう。

己と戦って、至極の作品を一本完成させる。そんな貴方が元々持つ、熱い根性をそっと応援する。そんなサークルはいかがだろうか。

熱血漫画根性会 文芸学科2年 酒井若菜



支部長会議と懇親会のご報告

令和6年度 支部長会議と懇親会が総会と同日の7月6日(土)に開催されました。

支部長会議

12時より支部長会議が西棟2階第2会議室で開催されました。出席者は田上会長、鞍掛副会長、高橋副会長、田中副会長、三原副会長、小橋副会長、北海道・氏家会長、宮城・桑折会長、山形・横倉支部長、ふくしま・酒井支部長、東京・大竹支部長、長野・松沢事務局長、愛知・三富副支部長、石川・干場事務局長、佐賀・光野会長、熊本・奥村会長、宮崎・竹井会長、鹿児島・平原会長代理、台湾・陳支部長の19名でした。各支部の活動報告を行い、支部長より支部補助金と支部長会議出席のための交通費の支払いについて、検討を希望する意見が多く出たので、今年度中に常任幹事会で話し合う事になりました。



撮影：崔仁煥（放送・R5年度卒）

懇親会

17時より芸術学部内学食で、豪雨と稲妻に2度も見舞われる中、懇親会が開催されました。出席者は約120名。

司会は放送学科2年後藤梨奈さんと浦木ほのかさん。司会者による懇親会の開催宣言で始まり、石川江古田会事務局長の干場さん（音S50年度卒）がソコロワ山下副学長と前に出て、全員で日本大学校歌を斉唱。

主催者挨拶に芸術学部校友会田上会長。ご来賓のソコロワ山下副学長の祝辞に続き、松本芸術学部事務局長と石本日本大学本部事務局長から祝辞を賜りました。

乾杯は木村前芸術学部長。

アトラクションは加藤順子さん（映卒）のカンツォーネ！ 出席していた歌手の松崎しげるさん（文卒）も加藤順子さんと歌い、会場は大きな拍手に包まれました。

懇親会に合わせて平成5年度卒がミニ同窓会を開催し、出席者のお一人脚本家の八津弘幸さんの挨拶もあり、おしゃべりと素晴らしい歌声を楽しみ、時間はあっという間に過ぎました。

集合写真撮影に続き、高橋副会長の中締めで閉会となりました。



撮影：八木元春（写真学科助教・H27年度卒）

お悔やみ



日本大学芸術学部元学部長であり、現日本大学名誉教授、また日本大学芸術学部校友会顧問の野田慶人先生（放送学科・49年度卒）が、2024年9月3日（火曜日）にご逝去されました。先生は芸術学部の発展に尽力され、校友会活動にも深いご理解を賜って下さいました。故人のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Vaundyさんの講演会が開催されました

第18回日藝賞を受賞したマルチアーティストのVaundyさん（デザイン・R5年度卒）の受賞記念講演会が江古田校舎で開催されたことが、日本大学新聞ONLINEに掲載されました。

<https://www.nu-press.net/academic/20240805111218/>



学部への寄付一覧（過去20年間）

年 度	項 目	費用（円）	備 考
2004年度	江古田キャンパス整備事業	50,000,000	
2012年度	防災グッズ 学部へ寄付	600,000	
2018年度	平成30年度入学歓迎式典費用一式	1,609,656	
2019年度	A棟建設及び江古田通年化寄付 学生食堂 室内エリア照明 図書館ウォーターサーバー 芸術学部年表ボード制作・設置 北棟中庭側側壁をスクリーン用に塗装	10,000,000	現在もウォーターサーバー代を支払い継続中
2020年度	新型コロナウイルス感染症対策緊急支援	5,000,000	ネットワーク整備補助金制度への支援
2021年度	学部創立100周年記念事業 産学連携授業への協賛	1,100,000	オールナイトニッポンラジオ放送
	合 計	68,309,656	

今昔江古田B級グルメ



何故か日芸周辺には、手頃な定食屋がないので、今回も江古田駅南口方面。

「キッチンABC」は小生が現役学生の頃にはなかったお店。1969年に豊島区要町に1号店が出来て、江古田店は2017年1月開店の比較的新顔だが、学生街の洋食屋さんとして有り難い存在だ。メニューも豊富で値段も手頃。

オリエンタルライスやインディアンライスが名物だが、小生はいつもハンバーグ系をお願いする。

今回は、サービスセットのA。ハ



ンバーグにカニコロケ。付け合わせの目玉焼きやナポリタンが嬉しくて、ザ・街の洋食！とても美味しい。

夜の時間帯は若者だけではなく熟年夫婦やサラリーマンなど客層が広い。それだけ街に愛されている証拠だろう。

学生街は手頃で美味しいものが食べられる店が豊富。

いつの時代も、学生は懐が寂しいが食べ盛りだ。江古田に限らず、隣の東長崎や桜台にも、手頃で美味しいものが食べられる店が豊富。西武池袋線、バンザイ！（Y）



訂正とお詫び

会報112号19P<校友会企画展>の「髭おやじとゆかいな仲間たち」の参加者氏名に記載漏れがありました。正しくは鈴木孝史、石吾克也、市川達也、梅村貴子、鯉江充、小泉誠之、下妻孝彰、田中光子、寺澤秀治、服部一人、森真次、山崎友也、山下大祐です。訂正してお詫び致します。

準会員(在学生)向け会報誌発送方法の変更について

郵便料金の値上げに伴い、現在準会員(在学生)向けに発送していた会報誌の発送方法を変更いたします。
前号(112号)は従来の郵送と芸術学部のマイポータルよりデータで学生本人に発送し、今号(113号)よりマイポータルからの発送のみに変更いたします。急な変更となりますがご理解いただきたくお願いいたします。

IT委員会からのお知らせ

校友会ホームページに「校友たちの活躍」というイベント情報の掲載欄があります。(https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/activity/) 全国の校友の皆様、展覧会、出版、公演などイベントを開催されるときにはぜひ情報をお寄せください。在学生のイベント情報も掲載できます。(学生の情報掲載は、各学科の先生を通じて校友会事務局に連絡をお願いいたします。)

編集後記

夏の暑さが天元突破しそうですが、皆様健やかにお過ごしでしょうか？ 江古田校舎ではあまりの暑さにエアコンがフル稼働した結果、先日、電力使用量が契約電力の上限ギリギリに迫りました。超過すると特別高圧契約に変わり、受電設備の設置や多額の費用が必要となるそうです。そのため教室のエアコンはいくら下げても集中制御で26℃に戻るようになりました。

(青木)

- 発行人 田上 竣詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 山本 英史、鯉江 充、青木 敬士
- 表紙 板垣冴知(2023年度卒)
『幸抱』
- デザイン監修 平林 直人
- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル
電話 03-3814-1225

寄付のお願い

皆様からの寄付を募っています。

1口3千円で何口でも寄付を受け付けております。

寄付金は校友会活動に有効に使わせていただきます。

振込先などのお問合せは日芸校友会事務局まで。

同窓会支援プロジェクト

校友会が同窓会開催のお手伝いをします。校友会名簿を元に、同窓会開催の案内郵送の住所ラベルにプリント、封筒貼りから発送など、実費で引き受けます。(ご希望に添えないこともあります) 詳しくは校友会までお問合せください。

住所変更等のご連絡について

住所等の変更がありましたら校友会事務局までご連絡ください。市町村区の合併等で番地が変更になられた場合もご連絡をお願いいたします。

電話/(03)3554-5363 メール/ekoda.koyu@gmail.com

HP/https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/

(トップページの“CONTACT”より「登録情報の変更」フォームにご入力ください)



日本大学芸術学部校友会

日本大学芸術学部校友会報・第113号

2024年秋季号●令和6年10月発行●

非売品

不許可転載

●発行所

日本大学芸術学部校友会

〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1

日本大学芸術学部に

電話 (03) 3554-5363

事務担当 星野 祥子

URL: https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/

メールアドレス: ekoda.koyu@gmail.com



令和7(2025)年度一般選抜のご案内

一般選抜N全学統一方式(第1期)学力検査型

学科	出願期間	試験日	試験場所
全学科	1月6日(月)～1月22日(水)	2月1日(土)	全国各地の試験会場

一般選抜N全学統一方式(第1期)専門試験併用型

(1) 学力検査

学科	出願期間	試験日	試験場所
全学科	1月6日(月)～1月22日(水)	2月1日(土)	全国各地の試験会場

(2) 専門試験

学科	専門試験実施日	試験場所
映画学科	2月2日(日)	芸術学部校舎
文芸学科 デザイン学科	2月2日(日) または 2月10日(月) を選択	
放送学科	2月3日(月)	
美術学科	2月3日(月) または 2月10日(月) を選択	
写真学科	2月4日(火)	
音楽学科	2月5日(水)	
演劇学科	2月4・5日(火・水)	

※一般選抜N全学統一方式(第1期)学力検査型に出願し外国語(英語)及び国語を受験することを必須要件とする(専門試験併用型のみの出願は認めない)。また、専門試験日程の重複がなければ学科間での併願を認める。

一般選抜N全学統一方式(第2期)学力検査型

学科	出願期間	試験日	試験場所
全学科	1月6日(月)～2月25日(火)	3月4日(火)	郡山、千葉、東京、湘南の 各試験会場

その他の入学者選抜や令和8年度以降の変更点については、
受験生向けサイト「日藝CROSS」をご確認ください。

<https://cross.art.nihon-u.ac.jp/>

